



[公財] 日本太鼓財団

NIPPON TAIKO FOUNDATION

会報

発行・編集 2014年 4月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

公益財団法人日本太鼓財団 理事長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:http://www.nippon-taiko.or.jp Email:info@nippon-taiko.or.jp

「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」が初の栄冠に輝く!!

第16回日本太鼓ジュニアコンクール

～福島県郡山市で開催～



(選手宣誓:「邦楽アカデミー和太鼓大元組ジュニア」豊間根 晶さん)

3月23日(日)、日本太鼓財団主催、東北太鼓連合、福島県支部主管により第16回日本太鼓ジュニアコンクールを福島県郡山市の郡山市民文化センターにおいて満員となる2,000名のお客様を前に開催いたしました。

内閣総理大臣賞、総務大臣賞、文部科学大臣賞を目指して全国38都道府県(予選実施34支部415チーム4,349名、支部推薦8チーム)から選抜された53チーム625名(最年少7歳、出場者平均年齢14.1歳)に加え、ブラジルチーム(12名)、台湾チーム(15名)の総勢652名が出場しました。

開会式は、優勝旗を手にした前年度の優勝チーム「手取亢龍若鮎組」(石川)を挟んで、ブラジルの優勝チーム「コロニアピニャール飛翔太鼓」と台湾の優勝チーム「天祥太鼓團」が中央に並び、全チームが整列して行われました。

国歌斉唱に続き、日本太鼓財団塩見和子理事長、品川万里郡山市長、日本太鼓財団福島県支部長であり東北太鼓連合の渡部世一会長が挨拶。そして、「手取亢龍若鮎組」より優勝旗並びに優勝杯が返還され、優勝杯レプリカと太鼓が贈呈されました。

続いて抽選で出演順1番目となった東京都代表「邦楽アカデミー和太鼓大元組ジュニア」の豊間根 晶さんが、堂々とした選手宣誓を行い、次いで長谷川副会長による初切り太鼓が演奏され、いよいよコンクールが幕を開けました。出場55チームは、大会要領に基づき長谷川副会長作曲による課題曲「黎明」と自由曲を5分以内で演奏しました。各チームの演奏

が終わる度に、満員のお客様より心からの拍手と声援が送られました。

55チームの演奏の後、前回優勝した「手取亢龍若鮎組」が特別演奏を披露し、全ての演奏が終了しました。閉会式では、審査委員の渡辺貞夫氏と喜多郎氏の講評と塩見審査委員長より総評があった後、結果が発表され、「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」(福島)が栄えある内閣総理大臣賞に輝きました。

優勝チームが発表された瞬間、会場の張り詰めた空気が一転し、割れんばかりの拍手が沸き起こりました。

「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」は、11歳から16歳までのメンバー12名で構成されたチームで、渡辺徳太郎氏の指導の下、練習を積み重ね、東北勢として初の優勝に輝きました。また、「天祥太鼓團」(台湾)が海外チームとしては初めて準優勝となり総務大臣賞を受賞。第3位には「輪島・和太鼓虎之介」(石川)が文部科学大臣賞を受賞しました。「コロニアピニャール飛翔太鼓」(ブラジル)は、ブラジルチームとして初めて5位入賞を果たしました。

出場全チームがこれまでの練習の成果を余すところなく発揮し、共に競い合った一日でした。今回の大会を通じて多くのことを学び、今後の活動に活かしていくことを期待しております。

また今回もインターネットによる全世界生中継を行い、会場に来られなかった方々や外国の太鼓愛好者等から大変好評を博しました。開始直後よりブラジルをはじめ海外からも感想などの書き込みが寄せられました。

最後に、審査委員、技術委員の先生方、ご父兄並びにご来場の皆様、そして参加者のために行き届いた心配りをして下さった200名近い福島県支部及び東北太鼓連合のスタッフ・ボランティアの皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

第17回大会は、長野県長野市で開催!

第17回日本太鼓ジュニアコンクールは、来年2015年3月22日(日)、長野県長野市のホクト文化ホールにて開催致します。

受賞一覧

優勝・内閣総理大臣賞
準優勝・総務大臣賞
第3位・文部科学大臣賞
第4位
第5位
特別賞 福島県教育委員会教育長賞
東北太鼓連合賞
郡山市教育委員会教育長賞
郡山市観光協会会長賞
郡山商工会議所会頭賞
福島民報社賞
NHK福島放送局賞
福島中央テレビ賞
福島放送賞
株式会社浅野太鼓楽器店賞
ブラジル太鼓協会賞
台湾太鼓協会賞
国際友好賞(太鼓贈呈)
国際友好賞(太鼓贈呈)

岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組(福島県)
天祥太鼓團(台湾)
輪島・和太鼓虎之介(石川県)
熊本市立必由館高等学校和太鼓部(熊本県)
コロニアピニャール飛翔太鼓(ブラジル)
太鼓研修センター「響」(宮崎県)
火の神乙女太鼓爽(鹿児島県)
和太鼓風(千葉県)
おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎県)
利府太鼓(宮城県)
和太鼓集団夢幻の会子ども太鼓(香川県)
串間くるみ太鼓(宮崎県)
やまばと太鼓(秋田県)
信濃国松川響岳太鼓子供会(長野県)
大和太鼓保存会鼓天童子(佐賀県)
和太鼓つばき(石川県)
ZENKAI太鼓「和」(大分県)
コロニアピニャール飛翔太鼓(ブラジル)
天祥太鼓團(台湾)

*優勝した「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」(福島)から感想文をいただきましたので掲載致します。

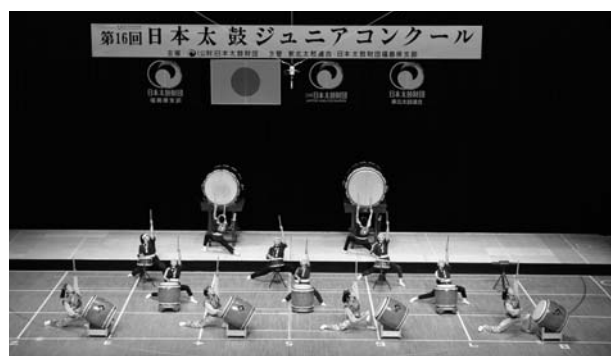
うねめ太鼓小若組の指導に携わって

指導者 渡辺 徳太郎

このたびは思いがけない優勝の榮譽に浴し、今までご指導、励ましの言葉をいただきました全国の皆様に厚く御礼を申し上げます。また、東日本大震災に際しましては、東北の太鼓団体に対して国内及び海外の太鼓団体の皆様から多額の支援金を賜りましたことも、心より厚く御礼を申し上げます。

うねめ太鼓小若組は、学校週休2日制に伴い余暇の活用を目的に、うねめ太鼓保存会の下部組織として誕生しました。支部大会は2回目から出場していましたが、上位に入るなどということは夢のまた夢で、6回目ころからチームの代表であった猪越三郎前会長より「俺が元気うちに小若組を全国大会に連れてってくんがえがいがい。」と相談を受けました。

子供の指導は初めてのことで不安がありました。翌年から練習をみることにしました。曲は一通り打てるのですが音がバラバラで雑音にしか聞こえません。そこで一打一打、音を合わせることから始めました。支部大会の一か月前まで音合わせだけの練習をしていたら、猪越前会長に「こんな練習で本当に大丈夫がい。」と心配されましたが3週間前頃になってようやく音を合わせられるようになり、曲を演奏させたところ見違えるように綺麗な曲になっていました。その年から支部大会で4位、3位と着実に上位入賞できるようになり、第9回の支部大会では念願の全国大会出場を果たしました。猪越前会長の恵比寿様のような喜んだ顔が今でも思い出されます。更に全国大会では初出場ながら思いもかけない第2



(優勝時の演奏)

位をいただき、この年は二重の喜びとなりました。

以来3度の挑戦の機会を得ましたが、いずれも全国の厚い壁に跳ね返されてきました。全国大会第2位になった先輩たちも指導に加わり、姿形、打法は全く同じでも何かが足りないのです。歴代優勝者のビデオを何度も何度も見返しました。いずれの優勝者も的確な打法とよどみない曲の流れ、そして曲に対する思い入れと心が感じられました。

小若組はここ2年間全国大会出場を逃していました。郡山市片平地区に伝わる「うねめ物語」を題材に曲を構成してまいりましたが、2年前の練習の時、子供たちに「うねめ物語」はどんな物語かと質問したところ、みなボカーンとして誰一人詳しい内容を知っている子供がおりませんでした。これには私も唖然として、これでは全国大会はおろか支部大会も勝てないわけだと改めて思い知らされました。そこから子供たちに「うねめ物語」を何度も何度も語って聞かせました。昔、片平地区には学識ある女人「采女」がいたこと、その学識の高さゆえ朝廷に呼ばれ

采女は許婚と離ればなれになってしまったこと、その後許婚が采女と別れた悲しみのあまり山の井に身を投げたこと、朝廷に仕えていた采女も許婚のことが忘れられず猿沢の池に身を投げたと思わせ片平に急ぎ戻ったこと、しかし許婚はすでにこの世にいない悲嘆にくれた采女も許婚が身を投げた山の井に身を投げたことなど細かく語って聞かせ、一つの音に魂、心をこめて打つ大切さを指導しましたところ、徐々にではありますが練習にも熱気が感じられるようになってまいりました。そして最後には「優勝したいという欲は捨て、自分が采女様になりきって納得のいく演奏ができればそれは皆さんの勝利だ」とステージに送り出しました。

今回の賞は身に余るものと思っておりますし、これからが正念場だと考えております。賞の名に恥じないよう更なる精進を重ね、鼓道の追求と音の心を求めていきたいと考えておりますので皆様の更なるご指導をよろしくお願い申し上げます。

また今回は地元開催ということでスタッフの一員も兼ねており、後片付け等に忙殺されろくな御礼も申し上げられず心苦しく思っておりました。全国からお出でになられた皆様に、この紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



(優勝「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」・福島)

審査委員

塩見 和子(財団理事長)*審査委員長
 王 妙 涓(台湾太鼓協会理事長)
 岡田 知之(洗足学園音楽大学名誉教授)
 喜 多 郎(音楽家)
 西角井正大(国立劇場おきなわ運営財団理事)
 長谷川 義(財団副会長)
 古屋 邦夫(財団技術委員会委員長)
 渡辺 貞夫(音楽家) (五十音順・敬称略)

<審査講評>

ジュニアコンクール終了後にとりまとめ、各出演団体に送付いたしました審査講評の要点を以下に抜粋しますので、参考にしていただき、今後益々精進されることを期待しております。

<全体>技術の向上が何え、チーム間の差が少なく優劣がつけがたい。

<課題曲>題名「黎明」の意味を理解していないチームが多く、強弱がなく音のバランスが悪く感じる。

<自由曲>速いテンポのうえ大きな音量で演奏するチームが目立ち、聞いていて苦痛を感じる場合がある。

笛を多用するチームが多いが、太鼓のコンクールであることを理解すべきである。

*詳細は当財団ホームページ「新着情報」に掲載されています。

全国大会で優勝して

リーダー 会田 結依

「優勝は…岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」と私たちのチームが呼ばれた瞬間は、喜びでいっぱいになったのと同時に、本当に優勝したのか分からない瞬間でもありました。

昨年度、私たちは福島県予選で4位という結果でした。普段の練習は変わりなく行っていましたが、今年全然違うところは、一人一人の意識とチーム力です。先生や先輩の指導と教えは、昨年と今年では何も変わらない大切なことだったのに、受け入れられるか、受け入れられないかで結果が大きく異なってくることを今実感しています。

昨年度はチーム全員の気持ちがひとつではありませんでした。例えば、小若組から気持ちが離れている子や、太鼓は好きだけど練習に来てもつまらない子、反抗期真っ盛りで先生や先輩の言葉に反発し、素直に受け入れられない子。また、支部大会では4位だったものの、その後の東北大会で優勝し、鼻が高くなっている子もいました。

今回大会で演奏した「安積山」という曲は、卒団した先輩たちが創作した曲です。この曲に対しても最初は自分の打ち方が綺麗で正しい、自分の振りにみんなが合わせれば良いと、統一する気持ちがなかったのです。そのため振りも音も先輩たちの真似をしているだけで一つになりきれず、自分たちの曲とはなりませんでした。

今年は、アレンジを含め、自分たちの意見を出して「安積山」を自分たちの曲にしました。そこへ先生の細やかな指導、卒団した先輩方の助言、いつも練習を見ていて下さる保存会の方々のサポート、太鼓を中心とした生活に合わせメンタル面でも支えてくれた家族、全てが重なってメンバー1人1人の力も大きくなりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回は福島県郡山市開催ということで、私たちが練習をしている公民館で、ブラジルと台湾のチームとの交流会が開かれました。「〇〇を通して…」とよく言いますが、太鼓を通して、全国や海外の人たちと繋がることができました。

私は太鼓が大好きです。太鼓は私を大きく成長させてくれています。優勝したことを誇りに思いながら、小若組の新たなスタートを切れるよう努力していきたいと思っています。

海外太鼓交流～ブラジル・台湾招請～

ジュニアコンクールには、10回目となるブラジルと4回目となる台湾のチームが出場しました。ブラジルからは昨年7月に行われた「第10回全ブラジル太鼓選手権大会」のジュニア部門(17団体200名参加)で優勝した「コロニアピニャール飛翔太鼓」の13歳から18歳の男女12名と、引率5名の総勢17名が来日、台湾からは昨年11月に行われた「第4回台湾太鼓青少年選手権」(23団体254名参加)で2度目の優勝を果たした「天祥太鼓團」の11歳から18歳の男女15名と、引率7名の総勢22名が来日をしました。

3月21日(金)午前中、雪を見るために猪苗代スキー場に赴き、2チームは雪合戦を楽しみました。子供達は初めての雪に触れて大興奮でした。リハーサルの後、地元団体の「うねめ太鼓保存会」に交流会を開催して頂き、2チームは日本文化の1つである餅つきを初めて体験するなど、楽しんでいる様子でした。大会前日の22日(土)には、ブラジル・台湾チーム、前回優勝の「手取穴龍若鮎組」で交流会を行いました。子供達はすぐに打ち解け、英語を駆使しながら交流を深め、またお互いの出し物に大きな拍手を送り終始笑いの絶えない会となりました。

「コロニアピニャール飛翔太鼓」は今大会で、村での生活を表現した「山すそ」を演奏、台湾チームは「隼」を披露しました。それぞれ課題曲とともに、練習の成果を発揮した見事な演奏でした。

その結果、台湾チームは海外チームとして初の準優勝・総務大臣賞を受賞、ブラジルチームは第5位に入賞し、海外における太鼓演奏の技術向上が感じら

れました。メンバーたちは「日本のジュニアチームのレベルの高い演奏を目の当たりにして感動した」、「自分達も益々がんばっていきたい」と話していました。

翌日の24日(月)は、台湾チームは東京ディズニーシーを訪れ、25日(火)に帰路につきました。

ブラジルチームは、24日(月)に群馬県へ移動し、大泉町にあるブラジル人学校で約150人を前に太鼓演奏を披露し、生徒と関係者は大いに盛り上がりました。翌日には石川県の浅野太鼓楽器店を訪問、工場内を見学し、その後福井県へ移動しました。彼らの住むコロニアピニャールは通称「福井村」と呼ばれるほど福井県出身の移住者が多く、今回の訪問が実現しました。26日(水)は午前中に福井県庁を訪れ、西川一誠県知事を表敬訪問しました。その後、坂井市立高椋(たかぼこ)小学校において約800名の前で演奏を行い、また地元の「龍神太鼓」と交流を深めました。

翌日、横浜にあるJICAの海外移住資料館を見学した後、日本財団を表敬訪問し、佐藤常務理事よりねぎらいと励ましのお言葉をいただきました。日本の印象や感想などを緊張しながらも一人ひとりが一生懸命に答えていました。

穏やかな春の陽気の中、折しも桜が開花し、「太鼓演奏はもちろんのこと、あこがれの日本で素晴らしい体験をし、一生忘れない良い思い出となった。皆様に感謝したい。学んだことを活かして、これからもがんばって太鼓を続けていきたい」と元気に日本を後にしました。



(手取穴龍若鮎組との交流会)



(高椋小学校での演奏)

成田太鼓祭に参加 ～全国太鼓情報発信基地に多くのお客様～

4月12・13日(土日)、千葉県成田市において「成田太鼓祭」が開催されました。今年は両日も天候に恵まれ、22万5千人もの人が訪れました。千葉県支部、千葉県太鼓連盟主催、当財団の共催により「全国太鼓情報発信基地」のブースを設置し太鼓を紹介致しました。情報発信基地では、事業紹介のパネルを展示したほか、浅野太鼓のご協力を得て大太鼓をお客様に実際に叩いてもらうコーナーを設け、多くの方が太鼓に親しまれていました。特に外国人やお子さんが多く皆さん思い切り太鼓を打って楽しんでいました。



(パネルに見入るお客様)

ジュニアコンクールの地区大会を開催！

第2回東北太鼓ジュニアコンクール

12月22日(日)東北太鼓連合の主催により「第2回東北太鼓ジュニアコンクール」と「第22回東北太鼓フェスティバル」が宮城県で開催されました。東北太鼓ジュニアコンクールには東北6県より20チームが出場、フェスティバルには各県代表として6チームが参加して2,000名の観客を集めて行われました。

日本財団が東日本大震災で被害を受けた太鼓団体へ太鼓支援したことをきっかけに東北太鼓連合が発足、その事業の1つとして、ジュニアの技術向上と交流を目的に開催されました。

会場の「とよま蔵ジウム(宮城県登米市)」には、折から降り出した雪にも拘わらず、熱心な観客が集まり開演いたしました。優勝した「岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組」は、昨年に続いての連続優勝となりました。全国大会でも東北大会の優勝チームとして恥ずかしくない演奏をしたいと決意を新たにしていました。

審査委員並びに成績結果は、次の通りです。

<審査委員>*敬称略

長谷川義(日本太鼓財団副会長)*審査委員長

古屋邦夫(日本太鼓財団技術委員長)

江頭啓輔(三菱ふそうトラック・バス株式会社相談役)

田中久仁明(一般社団法人日本マチングバンド協会理事長)

船木伊十矢(山田流箏曲演奏家)

<成績結果>

優勝:岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組(福島)

準優勝:山木屋太鼓(福島)

第3位:利府太鼓(宮城)

第4位:米山丸山太鼓(宮城)

第5位:山口太鼓の会嵐(岩手)

特別賞:田島太鼓龍巳会(福島)

相馬高等学校相馬太鼓部相馬の宵組(福島)

浅野賞:大船渡東高等学校太鼓部(岩手)

財団賞:あそびっ鼓組“遊”(青森)

<参加団体>20団体

青森1、岩手5、秋田1、山形1、宮城5、福島7

第8回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール

1月26日(日)全九州太鼓連合主催の「第8回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール」が、九州7県より51チームが参加して佐賀県で開催されました。2012年度より、全九州太鼓連合と台湾太鼓協会の協議により双方のジュニア大会で優秀な成績を収めたチームが、互いのジュニアコンクールに出演することとなり、台湾の準優勝チーム「泰山太鼓團」が特別出演いたしました。

会場となった「佐賀市文化会館(佐賀県佐賀市)」は、2,000人を収容する施設で、参加団体と応援に駆け付けた観客で満員となり、朝早くから熱気に溢れていました。各県で開催された支部大会での参加団体数に応じて県の出場数が決まることから51チームが参加する大会となりました。

レベルの高い争いを制し、「太鼓研修センター『響』(宮崎)」が4年連続の優勝を果たしました。

審査委員並びに成績結果は、次の通りです。

<審査委員>*敬称略

古屋邦夫(日本太鼓財団技術委員長)*審査委員長

松元和敏(全九州技術委員長)

藤重佳久(一般社団法人日本マチングバンド協会副理事長)

杉町たまみ(佐賀県吹奏楽部連盟理事)

吉岡耕一(佐賀県教育委員会)

<成績結果>

優勝:太鼓研修センター「響」(宮崎)

準優勝:二丈絆太鼓(福岡)

第3位:熊本市立必由館高等学校和太鼓部(熊本)

第4位:おおむら太鼓連くじら太鼓(長崎)

第5位:火の神乙女太鼓爽(鹿児島)

特別賞:日向の国「響」、轟太鼓道場(宮崎)、ZENKAI

太鼓「和」、楊志館高校邦楽部(大分)、山川ツマベ

ニ少年太鼓(鹿児島)、鹿屋農業高校和太鼓部(鹿児島)

浅野賞:県立希望が丘高等特別支援学校和太鼓部(長崎)

財団賞:不知火太鼓Jr(佐賀)

<参加団体>51団体

福岡7、長崎5、佐賀10、大分5、熊本10、宮崎7、鹿児島7

特別出演:「泰山太鼓團」(台湾ジュニアコンクール準優勝チーム)



(開会式の様子)



(台湾・泰山太鼓團)

＜第49回日本太鼓全国講習会(佐賀)＞

2月22・23日(土日)、全九州太鼓連合、佐賀県支部主管による全国講習会を佐賀県佐賀市の「佐賀県北山少年自然の家」にて実施いたしました。全国14都道府県に加え、台湾とシンガポールも含めた208名が受講しました。開会式では財団塩見理事長と佐賀県支部の野方支部長から励ましと歓迎の挨拶があり、講習会が始まりました。受講生たちは一生懸命、講習に励んでいました。

○基本講座講師 総合指導 古屋 邦夫
3級基本講座 安江 信寿
4級基本講座 若山 雷門
5級基本講座 田中 俊己

○専門講座 御諏訪太鼓講座 松枝 明美
秩父屋台囃子講座 高野 右吉
締太鼓講座 長谷川 義

◇技術認定員検定の結果は次のとおりです。

| | | |
|------|-------|--------------|
| 1級検定 | 17名受験 | 17名合格(1名認定) |
| 2級検定 | 46名受験 | 46名合格(14名認定) |
| 3級検定 | 23名受験 | 23名合格 |
| 4級検定 | 38名受験 | 38名合格 |
| 5級検定 | 64名受験 | 64名合格 |



(4級基本講座の様子)

*全国講習会を主管して頂いた佐賀県支部の野方支部長に寄稿していただきました。

「佐賀で全国講習会を開催して」

日本太鼓財団佐賀県支部 支部長 野方嘉孝

佐賀県は太鼓チームが少ないうえに日本太鼓財団に加盟している日本太鼓財団佐賀県支部(佐賀県太鼓連合)と県内だけの独立組織である佐賀県太鼓連盟とに別れており、方向性などがもともと違う2組織の状態でした。私が佐賀県支部支部長に就任後、昨年4月1日付にて各チームのご理解のもと1つの組織になることができました。名称は佐賀県支部(佐賀県太鼓連合)と致しました(加盟団体数17団体)。その後早速の大仕事は、第8回全九州・日本太鼓ジュニアコンクールの開催。各チーム面識の薄い人達でうまくできるか心配でしたが、お互いの気遣いと全九州各県の応援にて何とか無事終了できました。その1か月後の2月22・23日が第49回日本太鼓全国講習会の開催です。主会場は山の上、1講座は主会場とは別場所と人手が多くいる状況でしたが、各チームのジュニアの保護者の方までお手伝い頂き何とか無事終了できました。

全国講習会の開催について振り返ると、ジュニアの保護者の方に日本太鼓財団の事業の1つを知っていただくことができ、「我が子がこんなに頑張っているかと思うと、より太鼓を応援したくなる」という意見も聞け、各チーム間の距離もずいぶん近くなったように思えます。

佐賀県支部としても大変な役でしたが、おかげで色々プラス面が見え、有難く思っております。せっかく飛び込んだ太鼓の世界、係るごとに視野が広くなり、又魅力もより感じるものとなりました。誠に有難うございます。最後に、日本太鼓財団の益々のご発展をお祈り申し上げます。

「和太鼓水心会」が大田区の舞台上で演奏

3月9日(日)、東京都大田区にて行われた、studio邦楽アカデミー主催の和太鼓発表会「響奏和音XI～明日に向かって～」に、日本財団関連団体関係者からなる和太鼓水心会が参加いたしました。

発表会は2歳から80歳に渡る幅広い年齢層の生徒さんで構成されたクラスごとの発表会です。アカデミーオリジナルの法被をまとった和太鼓水心会は、昨年から習っている「清流」を6名のメンバーで演奏しました。

和太鼓水心会は発表会に第6回から出場し、今回で6回目の出場でした。日ごろの練習の成果に、観客の皆様から大きな拍手が送られ、出演者はまた来年に向け、気持ちを引き締めていました。



(和太鼓水心会) 提供:フォトクリエイト

各種会議を開催

第50回運営委員会並びに第49回技術委員会が1月10日(金)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<運営委員会・技術委員会>

1. 「2013年度事業の実施状況について」

- ①第16回日本太鼓ジュニアコンクールについて
 - ②第17回日本太鼓全国フェスティバル実施報告について
 - ③第15回日本太鼓全国障害者大会の実施報告について
 - ④第10回日本太鼓シニアコンクールの実施報告について
- ・障害者大会においては、第10回大会に引き続き、皇后陛下にご臨席頂き実施した旨を含む、上記3事業の実施報告について資料を基に説明し、いずれも了承された。

2. 「2014年度事業の実施について」

- ①2014年度事業の実施について
 - ②日本太鼓助成金交付事業について
- ・2014年度助成金交付35事業のうち、申請のあった32事業について説明があり、審議の結果、32事業全てを助成金交付対象とすることとした。なお、残る3事業については追加募集することとした。
- ・教職員研修会については、近年受講者が減少傾向にあることから、20名程度を基準として参加状況を見て実施判断することとした。なお、2015年度以降の対応として、教職員研修会は優先事業とせず、一般事業として取扱うこととした。

・現在は一律20万円の助成額について、事業数を減少し助成額を増額することなどを今後検討することとした。

3. 「その他について」

①支部の新規開設について

・現在の支部開設状況は、42都道府県に46支部となっている。残る滋賀、和歌山、山口、愛媛、高知の5県の支部開設について各委員の協力を求めた。

②日本太鼓ジュニアコンクールについて

・ジュニアコンクールの支部大会における審査員の選考等の方法について公明正大さを保つよう協力を求めた。また、大会に出場していない支部に対して各委員からの支援を求めた。

③日本太鼓シニアコンクールについて

・現在まで石川県において開催しているシニアコンクールを、将来的には他地域において実施する可能性を調査したい旨の発言があり、了承された。

第4回理事会並びに第4回評議員会が3月13日(木)に東京にて開催され、次の事項が審議、承認されました。

<理事会>

- 1. 2013年度事業計画及び収支予算の変更について
- 2. 2014年度事業計画及び収支予算について
- 3. 評議員会の開催について
- 4. 職務執行状況について

<評議員会>

- 1. 2013年度事業計画及び収支予算の変更について
- 2. 2014年度事業計画及び収支予算について
- 3. 職務執行状況について

第18回日本太鼓全国フェスティバルのお知らせ

期 日：2014年7月6日(日) 開場12:30 開演13:00 終演15:30(予定)

会 場：奥州市文化会館Zホール(〒023-0003 岩手県奥州市水沢区佐倉河字石橋41番地)

主 催：公益財団法人日本太鼓財団 主管：東北太鼓連合、日本太鼓財団岩手県支部 協賛：日本財団

入場料：前売券2,500円 当日券3,000円(来賓席を除き自由席)

チケット申込：5月12日(月)よりチケットぴあにて発売予定

<http://t.pia.jp/index.jsp> TEL 0570-02-9999 Pコード231-542

チケットぴあに関するご質問は、0570-02-9111にお問い合わせ下さい。

出演団体：岩手県合同チーム(岩手)、秩父屋台囃子若葉会(埼玉)、富岳太鼓竜神組(静岡)、尾張新次郎太鼓保存会(愛知)、太鼓集団天邪鬼(東京)、越中いさみ太鼓保存会(富山)、岩代國郡山うねめ太鼓保存会小若組(福島・第16回ジュニアコンクール優勝チーム)、御諏訪太鼓保存会(長野)、けんか七夕太鼓保存会(岩手)、豊の国ゆふいん源流太鼓(大分)

★会報は当財団ホームページでも閲覧できます★

会報はバックナンバーも含め、当財団ホームページの「新着情報」から閲覧可能です。ぜひご覧下さい。

<http://www.nippon-taiko.or.jp/>

事務局だより

第50回日本太鼓全国講習会(山梨県身延町)

期日:2014年6月21日・22日(土日)

会場:身延町総合文化会館 山梨県南巨摩郡身延町波木井407番地 TEL 0556-62-2110

主催:(公財)日本太鼓財団

総合指導 古屋 邦夫(技術委員会委員長)

専門講座

尾張新次郎太鼓講座(複式単打法) 安井 富(愛知県)

助六太鼓講座(単式複打法) 今泉 豊(東京都)

秩父屋台囃子講座(複式複打法) 高野 右吉(埼玉県)

申込先:(公財)日本太鼓財団

〒107-0052東京都港区赤坂1-2-2

TEL 03-6229-5577 FAX 03-6229-5580

締切:**2014年5月26日(月)** 当日到着分まで有効

基本講座

3級基本講座

4級基本講座

5級基本講座(初心者講座)

松枝 明美

安江 信寿

渡辺 洋一

お問合せ:日本太鼓財団山梨県支部

担当:小野智弘 TEL 090-2450-1647

第60回日本太鼓支部講習会(北海道室蘭市)

期日:2014年6月28日・29日(土日)

会場:室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設

主催:日本太鼓財団北海道道南支部

総合指導 古屋 邦夫(技術委員会委員長)

5級基本講座(初心者講座) 橋本 光司

締切:**2014年6月10日(火)** 当日到着分まで有効

お問合せ・申込先

北海道道南支部 事務局 櫛引秀明

〒050-0074 北海道室蘭市中島町2-28-6

ホテルサンルート室蘭内

TEL 0143-43-2333 FAX 0143-45-2910

2014年度日本太鼓助成金交付事業決定のお知らせ

運営委員会において、次の32事業が承認されました。報告書受理後、助成金20万円が交付されます。

<支部講習会> 5事業(海外含む)

6月28・29日(土日)北海道道南支部講習会(道南)(室蘭市)

7月12・13日(土日)第8回台湾太鼓講習会(台湾)(台北市)

9月27・28日(土日)北海道道西支部講習会(道西)(岩見沢市)

10月25・26日(土日)北海道道北支部講習会(道北)(旭川市)

2015年

2月14・15日(土日)東京都支部講習会(東京)(港区)

<教職員太鼓研修会> 7事業

6月15日(日)宮崎県教職員太鼓研修会(高鍋町)

8月3日(日)第13回群馬県教職員太鼓研修会(甘楽町)

8月17日(日)第7回長崎県教職員太鼓研修会(長田町)

8月21・22日(木金)第11回島根県教職員太鼓研修会(出雲市)

8月(予定)第9回栃木県教職員太鼓研修会(宇都宮市)

(夏予定)第4回北海道道西教職員太鼓研修会(未定)

9月23日(火祝)第20回長野県教職員太鼓研修会(岡谷市)

<一般事業> 20事業(海外含む)

4月27日(日)第40回富山県太鼓打ち競技会(砺波市)

5月25日(日)天手鼓舞20周年記念公演(広島市)

6月1日(日)第3回ホドピア河辺もりつと収穫祭「太鼓祭り」(秋田市)

6月28・29日(土日)加賀太鼓研究会(白山市)

7・8月(予定)親子ドンドコミニライブ(たつの市)

7月19・20日(土日)第1回全九州太鼓連合サマースクール(由布市)

7月19・20日(土日)第22回雷童サマースクール(立山町)

9月6日(日)北海道和太鼓フェスティバル「北響祭2014」(室蘭市)

9月15日(月祝)東日本太鼓まつり in 山形(酒田市)

10月18日(土)みやざき太鼓祭(清武町)

10月26日(日)みちのく盛岡民俗芸能まつり(盛岡市)

11月9日(日)台湾太鼓第7回フェスティバル・

第5回ジュニアコンクール(台湾彰化縣)

11月9日(日)第3回全九州ジュニア和太鼓団体海外派遣交流事業

(台湾)

11月15・16日(土日)東京都支部15周年記念コンサート(大田区)

11月16日(日)2014岩手郷土芸能祭・いわて太鼓フェスティバル in 一関・

いわい太鼓フェスティバル(一関市)

11月23日(日)大分県太鼓連合コンサート・

第15回日本太鼓ジュニアコンクール大分県大会(由布市)

11月(予定)栃木市岩舟町合併記念和太鼓フェスティバル

「これぞ栃木の太鼓!心ひとつに!」(栃木市)

12月7日(日)第25回東北太鼓フェスティバル(八戸市)

12月21日(日)第9回全九州・日本太鼓ジュニアコンクール(鹿児島市)

2015年

1月18日(日)第7回関八州太鼓まつり(埼玉県内)

★助成金3事業追加募集★

助成金交付事業は、1事業助成金20万円です。現在3事業の追加募集を行っております。

希望される支部は、財団事務局までお問い合わせ下さい。(申込締切は6月末日までです。)

(公財)日本太鼓財団 TEL 03-6229-5577 FAX 03-6229-5580 メール info@nippon-taiko.or.jp